



■あぜを焼く煙が農作業の春を告げる。幅広に整えられた柿の木の枝。浅緑色の芽ばえもまもなくだ

■水車の動力源は筑波山からの沢水。樋を通して水車を回し、水は再び沢水となって霞ヶ浦へと流れていく。樋の左下に伸びているフタ付きの水路は、かつての水力発電のなごり。近在10戸ほどの電気をまかっていたという



杉と水で 線香づくり



■出来上がった線香を束ねるのも手作業。水車の速度との相性がよさそうだ



■線香の原料は杉の葉。秋から冬に集めたものを乾かして使う。林業不振で伐採が少なくなり、入手しにくくなったのが悩みだという



■水車小屋の内部。水車で左の歯車が回り、その回転が右の歯車に伝わって垂直に並んだ杵が上下、杉の葉を搗いて粉にする

茅葺きは「筑波流」



■筑波山から吹き降ろす風は強い。筑波流で葺いた茅葺きの家を守るように屋敷林が立つ



■屋敷を囲う生け垣はサカキ。里山の常緑樹だ